

# MN IP-APP - 2110 UHD Gateway

Release Notes

---

Version 4.7.1

2024-09-25

日本語版

## 目次

<b>2110 UHD ゲートウェイ</b> .....	<b>3</b>
V4.7.1 .....	3
新機能 .....	3
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	3
<b>既知の問題 / 制約</b> .....	<b>5</b>
<b>以前のリリース</b> .....	<b>6</b>
V4.7.0 .....	6
V4.6.2 .....	6
新機能 .....	6
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	6
V4.6.1 .....	6
新機能 .....	6
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	6
V4.5.0 .....	7
新機能 .....	7
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	7
V4.4.0 .....	8
新機能 .....	8
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	8
V4.3.0 .....	8
V4.2.0 .....	8
V4.1.0 .....	9
新機能 .....	9
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	9
V4.0.0 .....	9
新機能 .....	9
改善とバグ修正 .....	9
V3.6.0 .....	10
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	10
V3.5.0 .....	10
バグ修正, 性能と安定性の向上 .....	10

## 2110 UHD ゲートウェイ

MN SET は MyRiedel 上で入手できます。5 ページの『既知の問題 / 制約』もご参照ください。

### V4.7.1

#### 新機能

- (MNIPB-4972 / MNIPB-4977 / MNIPB-4978 / MNIPB-4979) 以下のピクセル・データ構造、形式、解像度がゲートウェイ・エンカプスレーターでサポートされるようになりました：

YCbCr 4:4:4 10 ビット、RGB 4:4:4 10 ビット：

1280x720p 23.98/24/25/29.97/30 Hz

1280x720p 50/59.94/60 Hz

YCbCr 4:2:2 12 ビット、YCbCr 4:4:4 10/12 ビット、RGB 4:4:4 10/12 ビット：

1920x1080p 23.98/24/25/29.97/30 Hz

1920x1080psF 23.98/24/25/29.97/30 Hz

1920x1080i 50/59.94/60Hz

1920x1080p 23.98/24/25/29.97/30 Hz

3840x2160p 23.98/24/25/29.97/30 Hz

4096x2160p 23.98/24/25/29.97/30 Hz

サポートされているピクセル・データ構造と解像度の完全なリストについては『SMPTE ST 2110 SDI UHD Gateway APPs User Guide』のトピック「Formats / Resolution」を参照してください。

- (MNIPB-5769 / MNIPB-5772) SDI 入力での以下のビデオ形式の構造のサポートがゲートウェイ・アプリケーションに追加されました。これらのビデオ形式の構造は SDI ストリームのいわゆるアルファ・コンポーネント（「+A」または「+D」）を示していることにご注意ください。アルファ・コンポーネントは SMPTE ST 2110-20 ビデオ・ストリームの一部として定義されていません。つまり、SMPTE ST 2110-20 RTP ストリームとしてカプセル化される SDI 信号を受信するときに、その SDI 信号がリストされた形式構造の 1 つとして構築されている場合、アルファ・コンポーネントは単にドロップされて IP 経由では送信されません。Rest API と SDP では、信号はアルファ・コンポーネントを含まないものとして表示されます（いずれの場合も、これは SMPTE ST 2110-20 規格で指定されていません）。SDI ビデオ形式の構造は下表に示すように変換されます。

入力 SDI ビデオ形式の構造	カプセル化された SMPTE ST 2110-20 ビデオ・ストリーム形式
12 ビット 4:2:2:4 YCbCr+A	12 ビット 4:2:2 YCbCr
12 ビット 4:2:2:4 YCbCr+D	12 ビット 4:2:2 YCbCr
10 ビット 4:4:4:4 YCbCr+A	10 ビット 4:4:4 YCbCr
10 ビット 4:4:4:4 YCbCr+D	10 ビット 4:4:4 YCbCr
10 ビット 4:4:4:4 RGB+A	10 ビット 4:4:4 RGB
10 ビット 4:4:4:4 RGB+D	10 ビット 4:4:4 RGB

- (MNIPB-5366) VPID バージョン = 0 の受信 SDI ソースはすべて無視され、REST API を通じてでは VPID データが利用可能になりません。
- (MNIPB-5829) UHD ゲートウェイ・デバイスは、REST API を介して利用できる、工場出荷時にプログラムされたシリアル番号を表示できるようになりました。
- (MNIPB-4946) 個々のデバイスのチャンネルを NMOS レジストリで有効または無効にして、そのチャンネルのすべてのフローをルーティングに使用できるかどうかを指定できます。

#### バグ修正、性能と安定性の向上

- (MNIPB-3692) 補助ストリームのフィールド・ビット・ステータスが常にフィールド 1 を静的情報として返していました。
- (MNIPB-4984) ブラック・バースト機能を有効または無効にしても、デバイスの VPID 設定が維持されるようになりました。
- (MNIPB-5710) ソフト・リポート（別 APP のロード）中に電源を入れ直してもデバイスの管理 IP アドレス構成はリセットされなくなりました。

- (MNIPB-5208 / MNIPB-5295) ゲートウェイは、パケット・フィルタが有効になっていない受信側フローの設定を妨げます。トラフィックを正しく受信するには、少なくとも1つのパケット・フィルタを有効にする必要があります。
- (MNIPB-2493 / MNIPB-5428 / MNIPB-3917) 以前は `sdi_input` の `usec_offset` 欄に負の値を設定することはできませんでした。
- (MNIPB-3723) 映像信号の実際のフレーム・レートに対してフレーム・レートが正しく設定されていない場合、テレメトリ警告 1002 (`video_rate_convert configuration is invalid`) が発生するようになりました。
- (MNIPB-4804 / MNIPB-5020 / MNIPB-5021) SMPTE ST 292-1:2018 に従って、720 ラインの HD-SDI フォーマットは、関連ビデオ・ストリームの VPID 内の TCS フィールドに使われる関連する測色または伝達特性を持ちません。VPID の測色および伝達特性の値は 0 (reserved) です。
- (MNIPB-5093) 16 文字長のフロー・ラベルがサポートされるようになりました。REST API ドキュメントの説明に従って、REST API を用いて 16 文字長のフロー・ラベルを設定できます。以前は、REST API はフロー・ラベルを 15 文字以下に制限していました。
- (MNIPB-4052) **Audio Setting is invalid** エラー・メッセージ：MN SET の音声マッピングで音声チャンネル数を 2 から 8 に変更し、エンカプレーター・チャンネルを選択すると、**Audio Setting is invalid** エラー・メッセージが表示され、音声チャンネルを選択できませんでした。
- (MNIPB-5601) フローが順序どおりに設定されていない場合、フローが失われる：プライマリ・フローのよりも前にセカンダリ・フローを設定すると、2つのフローのうち1つが断続的にデータを受信しませんでした。今は、プライマリ・フローの前にセカンダリ・フローを設定して有効にすることができるようになりました。

## 既知の問題 / 制約

\*) このリリースが初：Version 4.7.1 @ 2024-09-25.

番号	解説
* MNIPB-5716	デバイスの再起動後、まれな状況で（時間の1%未満）、デバイスがプライマリまたはセカンダリ・イーサネット・インターフェイスとのアクティブな接続を取得できない場合があります。 回避策：デバイスを再起動 / 電源を入れ直してください。
MNIPB-2859	デバイスは複数の並列 AMWA IS-08 NMOS 音声チャンネル・マッピング・コマンドを一度に受信できません。これらのコマンドは順番に送信する必要があります。
MNIPB-4237	NMOS では、 <code>/emsfp/node/v1/self/diag/nmos/</code> で <code>registry_mode</code> が手動または自動に設定されている場合でも、AMWA IS-09 システム検出では常に自動 DNS 解決が使われます。
MNIPB-4713	NMOS では、ステージングされた SDP を使用し、クリーン・スイッチング後に、プライマリ・インターフェイスに残るべきすべての IGMP フローが離れるわけではありません。これにより、インターフェイスの過剰なサブスクリプションやパケット損失が発生する可能性があります。
MNIPB-2535/ MNIPB-2558	マルチキャスト・ルーティングの「任意の送信元」として送信元 IP = 0.0.0.0 を使用することはまだサポートされていません。
MNIPB-2534	CDIS の分配アンブ (DA) という使用状況では、「DA モード」の終了時にビデオ出力が失われます。 回避策：チャンネル 2 のネットワーク 2 を無効 / 有効にしてください。
MNIPB-2533	CDIS 2 ~ 4 フローの無効な設定の検証がありません。各フローを適切な順序で設定する必要があります。
MNIPB-2488	デバイス上で、同じマルチキャストを 2 つ以上の出力にデエンカプスレートするときに、1 つのデエンカプスレーター・チャンネル (チャンネル 1) でクリーン・スイッチングが有効になっており、2 番目のデエンカプスレーター・チャンネル (チャンネル 2) でクリーン・スイッチングが有効になっていない場合、チャンネル 2 でデエンカプスレーションされている同じ信号をチャンネル 1 でもデエンカプスレートされるように送信すると、チャンネル 1 の切り替えが即座に発生し、クリーン・スイッチ信号を待ちません。
MNIPB-2519	4096x2160P50/59.94/60 でフレーム同期が有効な場合、埋め込める音声グループは 2 つまでです。
MNIPB-2541	フローの設定後、プライマリ・フローのパケット・カウント (pkt_cnt) 値が 0 にリセットされる場合があります。
MNIPB-2216	メディア・フローがネットワーク・インターフェイスで許可されている帯域幅容量をオーバーサブスクライブすると、デバイスの管理インターフェイスが到達不能になる場合があります。 デバイスでサポートされるネットワーク帯域幅の詳細は『SMPTE ST 2110 SDI UHD Gateway APPs User Guide』のトピック「Media link and Port Bandwidth Requirements」を参照してください。
MNIPB-1924	デバイスの再起動後、設定されているバージョンに関係なく、フローの最初の参加は常に IGMP v3 を用いて実行されます。次の参加リクエストでは構成済みバージョンが使用されます。
MNIPB-2492	FusioN-6 でバルク・ルートを作成するときに、NMOS デバイスが一度に 5 ~ 10 秒間 NMOS レジストリ接続を失い、その後回復することがあります。
MNIPB-2563	デバイスが Syslog イベント通知をホストに送信すると、イベントのフラグが設定されていた場合はクリアされます。その結果、 <code>flow_impairment</code> Syslog イベント・タイプが有効になっている場合、そのフラグは 15 分ごとにクリアされます。これにより、REST API の <code>GET /self/diag/2110-7_engine/{engineId}</code> にある関連する障害ステータス・フラグも定期的にクリアされます。
ESKE-1643	デバイスの起動中は Syslog イベントが送信されません。
ESKE-1718	10G プラットフォームでは、 <code>flow_to_ptp_offset</code> のモニタリング・データがオフになります（小数点以下切り捨て）。
ESKE-1507	Ember+ ユーザーの場合、多数の情報のデバイス更新を同時に実行すると内部リソースの枯渇によって一部の更新がドロップされる可能性があります。 回避策：一度に更新される項目数を減らしてください。

## 以前のリリース

### V4.7.0

特になし。

### V4.6.2

#### 新機能

- (MNIPB-4906) `master_enable` という新しいフィールドが `/receivers/{receiverID}` エンドポイントと `/senders/{senderID}` エンドポイントの両方に追加されました。新しいフィールドの説明はアプリの REST API ドキュメントに記載されています。

#### バグ修正, 性能と安定性の向上

- (MNIPB-4053) V4.4, V4.5, または V4.6.1 ファームウェアを実行しているデバイスでは、音声マトリックスの編集および拡張時に Ember+ Viewer がクラッシュする場合があります。このリリースではこの問題が修正されています。
- (MNIPB-4760 / ESKE-1730) NMOS の IS-05 `master_enable` が適切に処理されるようになりました。
- (MNIPB-4215) SMPTE 2110 フローを無効にしても、対応する NMOS IS-04 Senders → subscription → active attribute の状態には影響しませんでした。
- (MNIPB-5422) レシーバー・ストリームでは Ember+ 音声マトリックス・ノードがツリーに表示されますが、空でした。

### V4.6.1

#### 新機能

- (MNIPB-4049) ファームウェアのバージョン管理は 3 桁 (major.minor.revision) で行われるようになりました。3 桁目の新しい「revision」は次のインターフェイスにあります：
  - LLDP のデフォルトのシステム説明
  - Ember+ のトップ・ノード
  - ビルド情報ファイル
  - 画像ファイル名
  - ウェブ・バージョン (CSS に 3 桁目を追加)

次のインターフェイスでは最初の 2 桁のみが表示されることに注意してください：

- REST `/self/firmware` version
  - ウェブ・バージョン (スパン)
  - ウェブにロードされたファームウェアの説明
- (MNIPB-4696) デエンカプスレーターの新しい VPID ソース設定により、SDI ストリームで使用される VPID データの 3 つのソースが提供されます。
    - Regenerated [再生成]：デフォルト設定。SDI データで送信される VPID は SDP から生成されます。このオプションは従来の動作です。
    - Source ソース：SDI データで送信される VPID はソース・ビデオに関連付けられた ST2110-40 フロー内の PID から取得されます。
    - Override オーバーライド：SDI データで送信される VPID は設定した値から取得されます。詳細はユーザー・ガイドを参照してください。

#### バグ修正, 性能と安定性の向上

- (MNIPB-3686) デバイスは管理インターフェイスの IP ネットワーク設定パラメーターを失い、到達できなくなります。
- (MNIPB-4152) NMOS デバイスの場合、フローが変更されるとデバイスはすべてのデバイス・リソースのレジストリに通知を送信します。これにより、変更されたフローのリソースのみが NMOS レジストリに送信されるようになります。
- (MNIPB-4651) デバイスは行末にキャリッジ・リターンとラインフィード (CR LF) 文字が組み合わされている特定の SDP コンテンツを認識しません。SDP コンテンツの新しい解析が使用されるようになりました。

- (MNIPB-4449) FusioN-6-B が有効な SDI 入力なしで起動され、フレーム同期が有効になっていると歪んだイメージがエンカプスレートされます。
- (MNIPB-2982) デバイスの再起動を伴う設定変更を行うと（例えばチャンネルの IP 設定を Static から DHCP に変更する）、すべてのフローのフロー ID が工場出荷時のデフォルトにリセットされます。
- (MNIPB-3380) デバイスが NMOS レジストリから自身を登録解除します。これは解決されました。
- (MNIPB-3770) ゲンロックされたエンカプセレーターでは、音声と映像と間の遅延が 2 ミリ秒を超えた場合、アプリは音声と映像を自動的に再同期するようになりました。以前は音声と映像との間にゆっくりとしたずれがあると、音声と映像が同期しなくなることがありました。信号が再同期されると、音声のグリッチが聞こえる場合があります。
- (MNIPB-4329) 実際には変更が行われていないのに、エンカプセレーター SDP のセッション・バージョンを増加させる原因となっていた問題が修正されました。

## V4.5.0

### 新機能

- (MNIPB-1670/MNIPB-2059) SMPTE ST 2022-7 ヒットレス冗長性における RED ネットワークと BLUE ネットワークの両方の受信機チャンネルの個別障害監視が利用可能になりました。
- 受信パケット数が 0 の場合、Syslog アラームが送信されます。
- 内部ポーリング・メカニズムは 500 ミリ秒のリフレッシュ・レートで動作します。
- Syslog アラームは、ステータスが有効なパケット・レートから 0 パケットに変化したとき、または 0 パケットを受信したときに送信されます。
- テレメトリーは RED および BLUE ストリームの現在のパケット・レートを送信します。
- (MNIPB-3121) 以下のデバイス固有の情報が REST API に追加されました：
  - 製品 ID.
  - 入力と出力の数（例えば 4R4T ゲートウェイ上の 4 つの入力と 4 つの出力）。
  - リンク速度（10 または 25 GBE）。
  - NMOS / Ember+ のサポート。
  - この情報は REST API の `/self/information` エンドポイントにあります。

### バグ修正、性能と安定性の向上

- (MNIPB-1775) FusioN-6-B による AMWA IS-08 への準拠性が向上しました。
- (MNIPB-2283) 測色は、SDP で設定されたビデオ・フォーマットに従っていませんでした。ここで、例えばビデオ・フォーマットが 12G の場合、測色値は BT2020 に設定され、ビデオ・フォーマットが 3G の場合、測色値は BT709 に設定されます。
- (MNIPB-2428) NMOS アプリでは、トランスポート・パラメーターに `source_ip = "auto"` を指定した PATCH コマンドの送信が AMWA IS-05 仕様の意図どおりに機能するようになりました。
- (MNIPB-2718) SDP ファイルを介してパラメーターを変更すると、音声フローが映像フローになる、またはその逆になる可能性があります。
- (MNIPB-3222) FusioN-6-B アプリの場合、`fan_speed` Syslog が `/self/syslog` で利用できるようになりました。
- (MNIPB-3266) Syslog では 16 文字のホスト名が最初の 15 文字に切り詰められていました。ホスト名の完全な長さがサポートされるようになりました。

## V4.4.0

### 新機能

- ・ デエンカプスレーション・チャンネル用の新しい 12 ビット, 4:4:4, RGB または YCbCr ピクセル・データ構造のサポート. 12 ビット, 4:4:4, RGB または YCbCr のピクセル・データ構造をサポートするフォーマットと解像度の詳細は『SMPTE ST 2110 SDI UHD Gateway APPs User Guide』の「Formats / Resolution」の節を参照してください.
- ・ (MNIPB-2122) SMPTE ST 2110 4:4:4/12 ビットによるカプセル化解除 — 出力カラーバー・テストパターン・ジェネレーター. カラーバーは視覚的に同一です. ただし, 正確なビットは以前のアプリケーションバージョン (V4.1.0 以前) とは若干異なります. これは, カラーバーを使用して正確なビット・マッチを実行する場合にのみ関係します.
- ・ (MNIPB-2181) FusioN-6 には常に UHD のサポートが含まれるようになりました. 以前のソフトウェア・バージョンからバージョン 4.4.0 にアップグレードすると, UHD ライセンスが自動的に有効になるようになりました.
- ・ (MNIPB-2060) `self/system` パスの下の `counters_reset` で PUT フローを作成することによって, REST API を介してすべてのフローのグローバル・カウンターのリセットが利用できるようになりました.

### バグ修正, 性能と安定性の向上

- ・ (MNIPB-2197) 欠落している IGMP ソースの IP アドレスの複合処理フローのフィルタリング制御が利用できるようになりました.
- ・ (MNIPB-2291) `sdi_valid` および `format_valid` の定義が更新されました:
  - `self/diag/flows`: `sdi_valid` は VPID が受信した SDI コンテンツと一致することを意味します.
  - `/flows`: `format_valid` は SDI コンテンツがサポートされている形式であり, 有効であることを意味します.
- ・ (MNIPB-2190/ESKE-1648) ストリームを変更する場合, または SDP ファイルのコンテンツを変更する変更を行う場合, SDP ファイル内の `<sess-version>` が更新されませんでした. セッション・データが変更されると, SDP ファイル内の `<sess-version>` がインクリメントされるようになりました.
- ・ (MNIPB-1643) 送信側の音声チャンネルをミュートすると, そのチャンネルも誤ってチャンネル 0 に再マッピングされました. 現在はチャンネルがミュートされるだけです.
- ・ (MNIPB-1863) マルチキャスト拡張アドレス範囲検証が強制されませんでした. 現在, デバイスは 224.0.0.0 ~ 224.0.1.255 の範囲のマルチキャスト・アドレスを受け入れません.
- ・ (MNIPB-2191/ESKE-1645) DHCP リクエストはセカンダリ・インターフェイスのホスト名を送信しません.
- ・ (MNIPB-2192/ESKE-1419) デバイスにロードされているアプリケーションを変更するときに, NMOS レジストリが新しいアプリケーションに関する情報で適切に更新されませんでした.
- ・ (MNIPB-2286) セカンダリ・インターフェイスが DHCP を使用する場合, メッセージングにポート 68 が使用されるべきではありませんでした.
- ・ (MNIPB-2070) デバイスがウェブ・インターフェイス経由でファームウェアをアップロードしている間, デバイスは別の IP アドレスから行われるすべての IP 接続をブロックします.
- ・ (MNIPB-2458) FusioN-6-B は, トランスポート・ファイル・パラメーターのペイロードに「null」に等しい「data」および「type」の値が含まれている場合, NMOS PATCH コマンドを拒否していました.
- ・ (ESKE-1625/MNIPB-2198) 複合処理 (CDIS) を受信した場合, 同じ端末で 2 回受信することはできません. 内部ルーティング DA はこの使用例では機能しません.

## V4.3.0

特になし.

## V4.2.0

特になし.



## V4.1.0

### 新機能

- (MNIPB-1105) EMBER+ に音声遅延制御を追加：デエンカプセレーターの場合、EMBER+ を通じて映像に対する音声の遅延値を読み取って設定できるようになりました。この遅延はミリ秒単位で設定されます。デバイスがベストエフォートで音声と映像を自動的に同期させるにはこの音声遅延値を 0 に設定してください。

### バグ修正, 性能と安定性の向上

- (MNIPB-992/MNIPB-1153) DHCP - RFC2131, Section 4.1 の実装のバグを修正し、初期 IP アドレスとして 0.0.0.0 を使用するようになりました。
- (MNIPB-986/MNIPB-1154) 熱管理警告閾値の強化：温度警告がすべて 5°C 引き下げられました。現在の警告閾値は次のとおりです：
  - CRITICAL\_TEMP\_ALARM = 80°C
  - HIGH\_WARNING\_TEMP\_ALARM = 75°C
  - CLEAR\_HIGH\_WARNING\_TEMP\_ALARM = 70°C
- デバイスの中心温度が 85°C に達するとデバイスは自動的にシャットダウンします。デバイスの内部温度が安全な動作温度 (< 70°C) まで下がったらデバイスの電源を入れ直す必要があります。

## V4.0.0

### 新機能

- (FEA6-1) 音声遅延補正：エンカプセレーターでフレーム同期を行うときに生じる映像遅延と一致するように音声を遅延させることができます。
- (FEA7-1) Mroute の制限—内部ループバック：トランシーバー・デバイスを使用すると、マルチキャスト・レシーバーは同じデバイスから発信され、同じメディア・ポートを使用してエンカプセレーターによって送信されたストリームを受信できるようになりました。
- (FEA8-1) エンカプセレーター上の自由な音声マッピング：SDI の音声チャンネルを 4 つのフローのいずれかに自由にマッピングし、チャンネルを何度でも繰り返したり、任意の位置にマッピングしたり、任意のチャンネルをミュートしたりできるようになりました。注：この機能に対応するために API が変更されました。
- (FEA9-1) I/O SFP のレポート：FusioN 3B および FusioN 6B にインストールされている I/O SFP のタイプとシリアル番号がユーザー・インターフェイスにレポートされるようになりました。
- (FEA10-1) Gratuitous ARP：DHCP リース後に Gratuitous ARP 要求が送信されるようになり、デバイスの検出が容易になります。
- (FEA11-1) RS-FEC のサポート：FusioN 3B と FusioN 6B の 25GE メディア・ポートでのリード・ソロモン FEC のサポート。有効または無効にすることができます。デフォルトでモードは有効になっています。注：古いハードウェア・バージョンでは利用できません。エラーが発生した場合はテレメトリーのページを参照してください。

### 改善とバグ修正

- (ESKE-883) デエンカプセレーターの SDP と API は、「設定された configured」 RTP\_PT と PTIME を返すようになりました。「受信 Received」値が診断パラメーターに含まれるようになりました。
- (ESKE-1371) IGMP バージョンを強制する新規パラメーター。
- (ESKE-1411) 管理パケット処理の復元力が向上し、VPN 経由で使用する場合に不安定なネットワークでの信頼性が確保されます。
- (ESKE-1566) フレーム・バッファが有効な状態で、SDI 出力ライン・オフセットのデフォルトが 0 (完全に PTP 調整済み) に設定されるようになりました。
- (ESKE-582) 2110-31 をエンカプスレートする場合、ASRC を稼働できません。
- (ESKE-955/1559) PTP 設定を指定どおりに構成できません。
- (ESKE-1407/1437) プライマリとセカンダリの PTP ドメインが異なるように設定されている場合、誤った「PTP ロック解除ステータス」が報告されます。
- (ESKE-1417) 約 50 日経過しても稼働時間カウンターに正しいカウントが表示されません。

- (ESKE-1479) エンカプスレータ・ゲートウェイは SDI 入力損失後もパケットを送信し続けます。
- (ESKE-1500) デバイスは PTP GM からロックを解除し、PTP エポックの大きな変更時にロック解除されたままになります。これは 50% の確率で発生します。
- (ESKE-1563) SDP の測色または TCS パラメーターが「未指定 unspecified」の場合、ルートが作成されません。注：「Unspecified」パラメーターは内部的にデフォルト値に設定されます。
- (ESKE-1583/1584) スイッチからの LLDP 情報が API を通じて報告された情報と一致しません。
- (ESKE-1638) 一括ルーティングの後に管理ポートが失われます。
- (ESKE-1694) アプリケーションのアップグレードまたはダウングレード時にセカンダリ IP がリセットされます。

## V3.6.0

### バグ修正, 性能と安定性の向上

- (ESKE-1451) エンカプスレータの入力で SDI 信号フォーマットが変更される場合、送信側の NMOS バージョンが変更されません。

## V3.5.0

### バグ修正, 性能と安定性の向上

- (ESKE-1373) エンカプセレーター・デバイスの入力で SDI 入力信号が失われた場合、SDP の Height 欄と Width 欄が 0 に設定されました。修正：最後の既知の値が保存されます。
- (ESKE-1415) 極めて特殊な状況では IGPV3 ソース IP が破損します。
- (ESKE-1422) NMOS を用いる場合、短期間に複数の接続が作成されるときに接続がリセットされることがあります。

以上